

農山漁村振興交付金(最適土地利用対策) 【猿ヶ京・月夜野地区】 群馬県みなかみ町

農地等活用推進事業

低コスト土地利用支援事業
(粗放的農地利用事業)

低コスト土地利用支援事業
(生産性検証事業)

1. 地域農業の状況

○ みなかみ町は、群馬県の最北端に位置し、本地区は、町の中心から西北部に位置した山間地域の「猿ヶ京地区」と町の玄関口である上越新幹線上毛高原駅を中心とする「月夜野地区」の2地域である。



○ 当地域の主な産業は中山間地域農業を営む小規模な農家と観光業を営む高齢の兼業農家がほとんどであり、地域の農林地の保全が将来的に危惧される地区である。

○ 中山間地に位置する多くの農家は山林も所有しており、所有地に「桐」を栽培し、農繁期は農地、農閑期は山林の整備と元々「半農半林」を実践していたが、木材価格の低迷や高齢化により条件の厳しい林業については経営状況が厳しくなったことから農林業の両立は困難となりつつあり、地域の活性化に向けた新たな取組が求められている。

3. 地区概要

実施主体	みなかみ町最適土地利用地域協議会	管理主体	地域協議会 (予定)
実施面積	56.26ha	整備面積	1.00ha
作付作物	桐	備考	特定、過疎

4. 事業実施計画

取組のポイント

荒廃農地等の解消を図るため、桐の植栽を行い、農業者の負担軽減を図る育成を実証しつつ、地域産業の活性化を図る。

成果目標

荒廃農地及び遊休農地の解消面積、荒廃農地及び遊休農地の発生防止面積、管理主体の確保

5. 期待される効果

低コスト土地利用支援事業(粗放的農地利用事業)の効果

○ 荒廃化を抑制する目的で「桐」栽培を地域ぐるみの話し合いを通じて荒廃農地等に植栽することで農地の有効利用を図る。
栽培された桐材については町で実施している広葉樹活用プロジェクトの一環として木材としての利用の他、苗の販売、短期間の栽培品(5年材・10年材)の利用を模索することも協議会で研究し、桐材の多様性を探る。
また、荒廃した農地を解消しつつ里山との緩衝帯とし、鳥獣被害の減少が期待できる。

【事業実施位置図】



長期的な効果

○ 農作業が比較的軽微な「桐」を導入することにより、農業者の労働負担を減らし農地の有効利用を図ることで農地の荒廃化を抑制し、荒廃した農地を解消しつつ、里山との緩衝帯として機能を実証していく。
また、上州桐の復活で産業の活性化、町内の桐材店(後継者3名)からの販路拡大、持続性が望める。

2. 事業計画

事業工期 令和4年度～令和8年度

令和4年度実施計画

- ソフト事業：計画検討、ワークショップ等、先進地視察、計画策定
- ハード事業：刈払い、集積・運搬、除礫作業、耕起・整地、土壌改良

農山漁村振興交付金(最適土地利用対策) 【武田原地区】 沖縄県金武町

農地等活用推進事業

低コスト土地利用支援事業
(粗放的農地利用事業)

低コスト土地利用支援事業
(生産性検証事業)

1. 地域農業の状況

- 金武町は、沖縄本島のほぼ中央部に位置し、武田原地区は金武町の東側に位置する並里区の水田地域である。
- 金武町は人口約11,000人であり、農業振興地域区域農用地が432ha、主に花卉、さとうきび、田芋、水稻、果樹、肉用牛、養豚、養鶏などの営農が行われている。

【沖縄県】



- 実施地区では田芋や水稻を主に栽培しており、集落に近いほ場は土地改良整備が未実施であり、水はけが悪く長年耕作されずに荒廃化しており、再生可能な荒廃農地約5ha、そのおそれのある農地約6ha存在している。
また、一筆ごとの面積が小さく地権者が多いため相続などで複雑化しており、農地としての活用が難しく長年耕作されずにいる。

- 現状では雑草が繁茂し周辺ほ場への影響が懸念され、今後さらに荒廃が進むと再生不能な農地となり得ることから、低コストで農地を維持・管理する仕組みを構築し、農地の持続的な整備及び管理が必要である。

2. 事業計画

事業工期 令和4年度～令和8年度

令和4年度実施計画

- ソフト事業：計画検討、計画策定
- ハード事業：—

3. 地区概要

実施主体 金武町

管理主体 自治組織

実施面積 11ha

整備面積 3.0ha (予定)

作付作物 放牧(ヤギ)、省力作物(ヒマワリ等)

備考 沖縄

4. 事業実施計画

取組のポイント

地域の話合いにより、荒廃農地の有効活用を図るため、ヤギやヒマワリ等を活用し、体験学習の場として、地域の資源を維持する。

成果目標

荒廃農地及び遊休農地の解消面積、話合い・協議回数、管理主体の確保

5. 期待される効果

低コスト土地利用支援事業(粗放的農地利用事業)の効果

【事業実施位置図】

- 農地として環境整備を行い、地域団体と連携してヒマワリ、トウモロコシ等の種まきなどの粗放的利用を体験学習として行うことで、有効活用を図りながら農地の保安全管理ができる。
体験学習では、管理に掛かる経費を回収する程度の収入を得る仕組みを確立する。また、畜産農家の協力を得てヤギの放牧利用することにより、保安全管理費用が低減できる。
地域の農地を保全する体制の構築が期待され、景観が形成され地元区の満足度も上昇し、地元区民の取組として期待できる。
- 不在地主等の農地についても地元区民と協力しながら意向を確認する予定である。



長期的な効果

- 農地として有効活用する事で遊休地化を防ぎながら地区の持続的な農地保全の体制が構築され、魅力向上や農業振興が期待できる。